

JST 社会技術研究開発センター・地域主導型科学者コミュニティの創生プロジェクト

地域環境学ネットワーク 設立記念シンポジウム

「地域の環境保全と持続可能な発展に役立つ科学を求めて」

2010年 9/18(土)・19(日) 会場: 大阪学院大学

■9月18日(土)

- 12:30～ 受付開始: 2号館B1-02 前
- 13:00～18:30 基調講演・シンポジウム第1部: 2号館B1-02
- 18:45～20:45 交流会(会費制): 職員食堂

■9月19日(日)

- 8:30～ 受付開始: 2号館B1-02 前
- 9:00～10:00 地域環境学ネットワーク総会(会員のみ): 2号館B1-02
- 10:00～12:00 ポスターセッション: 2号館B1フロア
- 13:00～17:30 シンポジウム第2部: 2号館B1-02

入会
申し込み
受付中!

主催: 地域環境学ネットワーク

http://www2.nagano.ac.jp/sato/network_localscience/index.html

プログラム（1日目：9月18日）

【会場】2号館B1-02

開会あいさつ

13：00～13：10 小林傳司（独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「科学技術と人間」研究開発領域 総括補佐 / 大阪大学教授）

基調講演

13：10～13：50 佐藤哲（長野大学）
「地域の持続可能な発展に役立つ科学を求めて
地域環境学ネットワークがめざすもの」



東アフリカ・タンガニカ湖・マラウィ湖の魚の生態と進化、および、ニッチ構築と種間相互作用による生態系進化を研究してきました。環境保全と自然資源管理に役立つ知識を生産しつつ、その知識を活用して地域住民主体の環境保全と地域づくりの方策を考える実践的な「地域環境学」が最近の主な関心で、アフリカの湖から石垣島のサンゴ礁、長野の里山まで、さまざまな地域をフィールドに活動しています。

休憩 13：50～14：00

シンポジウム第1部 14：00～18：30

「地域に役立つ知識とは？ さまざまな研究のありかた」

14：00～14：05 コーディネーター：家中茂（鳥取大学）

地域資源管理をめぐる意思決定プロセス、権力関係を研究しています。沖縄、水俣などをフィールドにして、生活の立場からの環境（問題）研究に取り組んでいます。



14：05～14：40 新妻弘明（東北大学）
「地域の固有性に即した問題解決のための科学
EIMYの研究を通して」

エネルギーの地産地消であるEIMY（Energy In My Yard）の概念を提唱し、福島県天栄村湯本、宮城県川崎町、長野県小谷村などでその実践的研究を行っています。



“まわそう風のちからで、土のちからで”
EIMY湯本プロジェクト

14 : 40 ~ 15 : 15 比嘉義視 (恩納村漁協)

**「生業の中での研究 漁業者の生活のための
知識技術と海洋環境の保全」**

沖縄県恩納村漁協で、モズク、海ぶどうなどの養殖技術開発と産業化に携わってきました。また、サンゴ再生やオニヒトデ除去、赤土流出防止など海域の環境・生態系保全活動にも取り組んでいます。



恩納村漁協
「サンゴ礁の海を育む」活動

15 : 15 ~ 15 : 50 井田宏之 (社団法人エゾシカ協会)

**「マイナス資源をプラス資源へ
エゾシカの有効利用を通じた地域課題の解決」**

増え続けるエゾシカの個体数調整策の一つとして有効活用(食べる、使う、着る)に関する活動を10年間行ってきました。これからは、エゾシカを含む自然資源を利用した観光と食をテーマにしたいと思っています。



エゾシカを知り、有効活用する
エゾシカ角クラフト教室

15 : 50 ~ 16 : 25 野崎進 (株式会社四季工房)

**「企業活動を通じた技術開発と地域社会
地域工務店の森づくり・地域づくり」**

福島県に本社を置き、東京から宮城に拠点を持つ工務店です。全棟、国産材100%、ソーラーハウスの認定を取得したエアパス工法で、大工が一棟一棟手刻みし、漆喰仕上げの家づくりを行っています。



地域材を用いた環境共生型の
住宅づくり

16 : 25 ~ 17 : 00 松田裕之 (横浜国立大学)

**「訪問型研究者と地域
受け入れられ活用される私になるために」**

数理生態学を用いて、愛知万博環境影響評価、北海道エゾシカ管理、知床・屋久島世界遺産などの委員を務めながら、生態系管理の具体的な解を提示するために研究を進めています。(社)水産資源・海域環境保全研究会代表理事。



知床海域管理計画 /
エゾシカ順応的管理

休憩 17 : 00 ~ 17 : 10

パネルディスカッション 17 : 10 ~ 18 : 30

17 : 10 ~ 17 : 20 秋道 智彌 (総合地球環境学研究所) **コメント**

地域の資源利用と配分、利害関係者間における協治や資源管理についての研究を実施している。また、「広域アジアにおける地球環境レポジトリの構築と新しい知の創生」に向けたネットワークづくりをこの5年間進め、全国の国公立大学の機関との連携を強めてきた。その一環として研究連絡誌『SEEDer』を通じた情報発信を行っている。

プログラム（2日目：9月19日）

【会場】2号館B1-02 （ポスターセッションはフロアにて）

地域環境学ネットワーク総会 （会員のみ）

9：00～10：00

ポスターセッション

10：00～12：00

第1コアタイム（奇数No.） 10：30～11：00

第2コアタイム（偶数No.） 11：00～11：30

昼食 12：00～13：00

シンポジウム第2部 13：00～17：30

「地域で活躍するネットワーク

意見や価値観の違いを超えた協働」



13：00～13：05 コーディネーター：清水万由子（長野大学）

「シンポジウムの概要」

地域の役に立つ研究者をめざして、修行中です。ニュータウンでの地域再生、公害地域再生、ローカルアジェンダ21などの取り組みに参加しながら合意形成プロセスを研究してきました。



13：05～13：40 鎌田磨人（徳島大学）

「かみかつ里山倶楽部にかかわる懲りない人々」

「人間が自然にどのように向き合い働きかけてきたのか、それに対して自然がどのように反応してきたのか」というテーマが仕事のベースです。学芸員として8年間過ごした徳島県立博物館で、研究成果を一般の人に伝えること、地域に還元することの意味や方法について課題を見つけられました。このプロジェクトでやっていることは、博物館時代にもらった宿題への回答づくりだと感じています。



徳島県立高丸山千年の森
植栽地の様子

パネルディスカッション

16：10～17：25

16：10～16：20 中村浩二（金沢大学） **コメント**

運営委員長を務めている「能登半島里山里海自然学校」と「能登里山マイスター養成プログラム」では、廃校を再生した「能登学舎」を拠点として、常駐研究員をおいて、奥能登で活

13：40～14：15 丹羽健司（矢作川森の健康診断実行委員会）
「調べることで人々をつなぐ
森の健康診断」

大学在学中から有機農業運動に没頭し、農業就業を経て、1980年農林水産省入省。そのかたわら「日本の食糧・農業・健康を考える愛知の会」幹事など食と農の市民運動を経て、「足助きこり塾」「矢森協」「伊勢・三河湾流域ネットワーク」創設にかかわる。現在、矢作川森の健康診断実行委員会代表、矢作川水系森林ボランティア協議会代表。NPOタ立山森林塾で「木の駅プロジェクト」、NPO山里文化研究会で山里の聞き書き活動を進めています。



矢作川森の健康診断

14：15～14：50 上村真仁（白保魚湧く海保全協議会）
「地域の活動を支えるカタリスト
裏方としてのレジデント型研究者」

沖縄県石垣島白保集落において、サンゴ礁保全に資する持続可能な地域づくりに取り組んでいます。また、全国・世界の魚垣を有する地域の連携・交流を図る世界海垣サミットの開催を目指した取り組みを行っています。



しらほサンゴ村
（WWFサンゴ礁保護研究センター）

14：50～15：25 神田優（NPO法人黒潮実感センター）
「住み着くということ
里海に対する誇りと愛着」

人と海とが共存できる「里海」のモデルを高知県柏島でつくるため、多くの人に海を知ってもらい、共に育てていくための活動を行っています。定期的な海洋環境調査、自然を実感する体験学習やエコツアー、間伐されたヒノキ枝を使ったアオリイカの産卵床づくりなど、精力的に取り組んでいます。



海の中の森づくり
アオリイカの人工産卵床として
間伐材を海底に設置

15：25～16：00 鹿熊信一郎（沖縄県八重山農林水産振興センター）
「行政マン研究者と地域
使える知識技術の知恵袋」

熱帯・亜熱帯における水産資源管理とサンゴ礁生態系保全を扱っています。最近、MPA（海洋保護区）や里海に関心をもっています。現在は、沖縄県の石垣島で水産の普及指導員をやっています。また、日本サンゴ礁学会・サンゴ礁保全委員会の委員長もやっています。



八重山海域 MPAによる資源管理

休憩 16：00～16：10

躍する多彩な人材と協力しながら、身近な自然である里山や里海の保全と再生、体験学習、都市と農村の交流事業、さらに環境に配慮した農林水産業を基盤とした地域振興の人材養成を行っています。

ポスターセッション

【会場】2号館フロア

コアタイム：奇数No. = 10：30～11：00 / 偶数No. = 11：00～11：30

No.	発表者氏名 所属 「タイトル」
1	寺林暁良 ¹ ・竹内健悟 ² ¹ 北海道大学大学院文学研究科博士課程 ² 青森市立浪岡北小学校 「地域社会による環境管理システムを再構築するためにー生態系調査とメタガバナンスの役割ー」
2	三上光一・高橋一秋・高橋大輔・佐藤哲 長野大学環境ツーリズム学部 「情報インフラ整備による里山環境モニタリングの可能性」
3	白川勝信 高原の自然館（北広島町教育委員会） 「住民と研究者が互いの知識を補ってつくる生物多様性地域戦略」
4	永野昌博・伊藤千恵・山岸洋貴・澤島拓夫・三上光一 十日町市立里山科学館「森の学校」キョロロ 「市民・観光業者・研究者の3者協働による地域活性～「里山のめぐみ案内人の会」の挑戦～」
5	高橋大輔・井出悠生・高橋一秋・三上光一・佐藤哲 長野大学環境ツーリズム学部 「森林内水域が里山における生物多様性および生態系サービスの改善に及ぼす効果について」
6	坂本真理子 ¹ ・澤田俊明 ¹ ・大西舞 ² ・渡辺雅子 ³ ¹ 有限会社 環境とまちづくり ² 徳島大学大学院修士課程 ³ 阿南工業高等専門学校 「地域環境保全活動における協働形成の予備考察」
7	與儀正 八重山漁業協同組合 「八重山におけるオニヒトデ駆除活動」
8	可知直毅・沼田真也 首都大学東京 「島嶼共生系学際研究環」
9	山場淳史・佐野俊和 広島県立総合技術研究所林業技術センター 「里山人工林の集約化施策に役立つコミュニケーションツールの開発」
10	倉本宣 ¹ ・野呂恵子 ¹ ・戸嶋卓志 ² ¹ 明治大学農学部応用植物生態学研究室 ² 戸田建設株式会社横浜支店 「多摩川支流三沢川における絶滅危惧藻類カワモズクの保全」
11	金城達也 北海道大学大学院文学研究科博士課程 「「包括的な地域」における社会の多様性と環境保全 沖縄県国頭村楚洲集落を事例として」
12	池上真紀 ¹ ・富田昇 ¹ ・新妻弘明 ¹ ・菊地重雄 ² ¹ 東北大学大学院環境科学研究科 ² NPO法人川崎町の資源をいかす会 「里山と薪ストーブユーザーを直接つなぐ「川崎 - 仙台薪ストーブの会」」
13	浅川満彦・遠藤大二 酪農学園大学 獣医学部 野生動物医学センター 「医学・獣医学・保全生態学の学際領域『保全医学』からエコツーリズムにおいて利用される動物の健康をアセスする」
14	渡辺雅子 ¹ ・太田直友 ¹ ・鎌田磨人 ² ・澤田俊明 ² ¹ 阿南工業高等専門学校 ² 徳島大学 「産官学民協働の“極意” ～みなみから届ける環づくり会議をモデルに～」
15	富田昇・星美喜雄・星あき子・池上真紀・新妻弘明 東北大学大学院環境科学研究科 「山・湯・人～地域の宝でなりわい・いとなみづくり～「EMMY湯本プロジェクト」」
16	清水万由子 長野大学環境ツーリズム学部 「まちづくりの主体を生み出す ～西淀川交通まちづくりプロジェクト～」
17	山菅香 首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域 「エコツーリズムにおける研究者とガイドの関係性に関する研究 - 東京都小笠原村父島を事例として - 」
18	佐藤崇範 財団法人黒潮生物研究財団 黒潮生物研究所 「地域コミュニティとの交流を通じた研究環境の強化 ～黒潮生物研究所の9年間の活動とこれから」
19	富山実 愛知県知多農林水産事務所 「漁業者とともにすすめている愛知県での漁業管理」
20	立澤史郎 ¹² ・手塚賢至 ² ・荒田洋一 ² ・牧瀬一郎 ²³ ・川崎勝也 ⁴ ¹ 北海道大学・ ² 屋久島まるごと保全協会・ ³ 上屋久獺友会・ ⁴ 屋久島町 「社会的ボトムアップによるヤクシカ個体群管理の試み 市民調査主導の意義・現状・課題-」

地域社会が直面する環境問題の解決と地域の持続可能な発展を目指す取り組みの中では、さまざまな**科学的な解決策**が提案されても、それが**地域の人々によって必ずしも有効に活用されない**という事態がしばしば起こります。

これは、もしかすると科学者が地域に固有の伝統や文化、在来
の意思決定システムなどと整合しない、いわば**地域では使えない知識を生産しがち**であることに問題があるのではないか？
このような問題意識のもと、私たちはJST社会技術研究開発センターの支援を受けて2008年から「地域主導型科学者コミュニティの創生」研究開発プロジェクトを推進し、地域の環境問題の解決と持続可能な発展のために役立つ「**問題解決型**」の知識を生産する**科学のあり方、地域社会の中での科学者・専門家と多様なステークホルダーとの協働のあり方**を追求してまいりました。

また、2010年3月にはこのような問題意識を共有する全国の科学者・専門家と地域のステークホルダーのみなさんが集まる「**地域環境学ネットワーク**」を設立して、各地の事例に関する情報の共有と相互の研鑽を促進する仕組みを整えてまいりました。

今回、地域環境学ネットワークの設立を記念して、ネットワークの理念と意義を多くの方々にご紹介するために、地域環境学ネットワーク設立シンポジウムを開催いたします。

シンポジウムの第1部では全国各地の事例の紹介を通じて、地域の人々自身による問題解決への取り組みに役立つ知識を生産する科学が、**職業的な科学者・専門家だけでなく多様な立場の人々によって担われている実態**から、従来の科学の枠を超えた新しい知識生産のあり方を探求します。

各地で地域社会が直面する環境課題に取り組む多様な人々は、**地域社会の中でダイナミックに活動するネットワーク**を形成しており、職業的**科学者・専門家**や多様な知識生産の主体はその重要な構成員です。第2部では、このような地域内の**ネットワークが求心力を維持しながら問題解決に向けた活動を推進できる仕組み**を、各地の先進的事例を通して検討します。

また、2日目の午前中には各地の取り組みのご報告をいただくポスターセッションを開催し、ご参加いただくみなさんとの情報共有と交流を深めたいと思います。

地域社会の自然環境と調和した持続可能な発展を目指して奮闘しておられる、全国のみなさまとの交流をおおいに楽しみたいと思います。

地域環境学ネットワーク 代表
佐藤 哲



地域環境学ネットワーク

会員リスト(2010年9月8日現在) 印は設立発起人、 印は運営委員です。

秋道 智彌	総合地球環境学研究所 副所長/教授
あんまくだなるど	国連大学高等研究所いしかわ・かなざわ オペレーティング・ユニット所長
池上 真紀	東北大学大学院環境科学研究科 助教
池田 啓(故人)	前 兵庫県立コウノトリの郷公園 研究部長
伊吾田 宏正	酪農学園大学環境システム学部 講師
井田 宏之	社団法人 エゾシカ協会事務局長 / 北海道スローフード・フレンズ帯広 役員
上田 剛平	豊岡市コウノトリ共生課 課長
上田 剛平	兵庫県但馬県民局豊岡農林水産振興事務所
内田 しのぶ	(財)北海道環境財団 釧路湿原自然再生普及行動計画ワンダグリダ・プロジェクト担当
太田 格	沖縄県水産海洋センター
大西 秀之	同志社女子大学現代社会学部社会システム学科 准教授
落合 雪野	鹿児島大学総合研究博物館 准教授
垣花 薫	慶良間海域保全連合会 会長
垣花 武信	(株)21ザマミ社長 / 前 慶良間自然保全環境会議 会長 / 前 座間味村商工会 会長
鹿熊 信一郎	沖縄県八重山支庁農林水産整備課 普及員
梶原 宏之	阿蘇たにびと博物館 館長
可知 直毅	首都大学東京理工学研究所 教授 / 小笠原研究委員長 / 島嶼共生系学際研究環代表
金尾 滋史	多賀町立博物館 学芸員
鎌田 磨人	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部/工学部建設工学科 教授
上村 真仁	白保魚湧く海保全協議会 事務局長 / WWF サンゴ礁保護研究センター センター長
神田 優	NPO 法人黒潮実感センター センター長理事 / 高知大学客員准教授
蔵治 光一郎	矢作川森の研究者グループ共同代表 / 東京大学愛知演習林 講師
倉本 宣	明治大学農学部 教授
小串 重治	グリーンフロント研究所株式会社
近藤 誠司	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター/大学院農学研究院 教授(兼任) 社団法人エゾシカ協会 / 北海道和種馬保存会 会長
坂本 真理子	かみかつ里山倶楽部 / (有)環境とまちづくり
佐藤 哲	長野大学環境ツーリズム学部 教授
澤田 俊明	(有)環境とまちづくり / 徳島大学客員教授
(株)四季工房	代表取締役 野崎 進
島上 宗子	一般社団法人あいあいネット(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)
清水 万由子	長野大学 研究員
白川 勝信	芸北 高原の自然館 主任(学芸員)
洲崎 燈子	矢作川森の研究者グループ共同代表 / 豊田市矢作川研究所 主任研究員
鈴木 克哉	兵庫県立大学自然・環境科学研究科 助教 / 兵庫県森林動物研究センター 研究員
鈴木 正嗣	岐阜大学応用生物科学部 教授
須藤 明子	(株)イーグレット・オフィス 専務取締役
藺 博明	環境ネットワーク奄美 代表
竹内 周	株式会社 井ゲタ竹内 常務取締役
高橋 一秋	長野大学環境ツーリズム学部 准教授
高橋 大輔	長野大学環境ツーリズム学部 准教授
谷口 洋基	阿嘉島臨海研究所 研究員
寺林 暁良	農林中金総合研究所 研究員 / 北海道大学大学院文学研究科 博士後期課程
富田 昇	東北大学大学院環境科学研究科 研究員
中嶋 建造	NPO土佐の森・救援隊 事務局長
永野 昌博	十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ 主任学芸員
中村 浩二	金沢大学 学長補佐(社会貢献担当) / 環日本海域環境研究センター長 / 里山プロジェクト代表 / 教授 里山里海サブグローバル・アセスメント・科学評価パネル共同議長
新妻 弘明	東北大学大学院環境科学研究科基幹講座太陽地球計測学分野 教授 天栄村EMV湯本プロジェクト川崎-仙台薪ストーブの会
丹羽 健司	矢作川森の健康診断実行委員会 代表
沼田 真也	首都大学東京 都市環境科学研究科観光科学域 准教授
比嘉 義視	恩納村漁協 指導員
福永 真弓	立教大学社会学部 助教
牧野 厚史	滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員
牧野 光琢	(独)水産総合研究センター中央水産研究所 研究員
松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報学府環境情報研究院 教授
間野 隆裕	豊田市矢作川研究所 総括研究員
三上 光一	長野大学 研究員
三橋 弘宗	兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
宮内 泰介	北海道大学大学院文学研究科 教授
三輪 信哉	大阪学院大学国際学部 教授
家中 茂	鳥取大学地域学部 准教授
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所 所長 / 教授 / 「海域環境再生(里海創生)社会システムの構築」研究代表者
山菅 香	首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 観光科学域 博士前期課程
山場 淳史	広島県立総合技術研究所 林業技術センター
山本 信次	岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 准教授
湯本 貴和	総合地球環境学研究所研究部 教授 / 多様性領域プログラム主幹
與儀 正	八重山漁協